

## 令和5年1月 岩手県教育委員会定例会 会議録

### 1 開催日時

開会 令和5年1月16日(月)午後1時30分

閉会 令和5年1月16日(月)午後1時55分

### 2 開催場所

県庁10階 教育委員室

### 3 教育長及び出席委員

佐藤 博 教育長

新妻 二男 委員

島山 将樹 委員

宇部 容子 委員

小野寺 明美 委員

泉 悟 委員

### 4 説明等のため出席した職員

佐藤教育局長、高橋教育次長兼学校教育室長

西野教育企画室長兼教育企画推進監、三浦義務教育課長、菊池保健体育課総括課長

教育企画室：菊池主任主査、西山主任(記録)

### 5 会議の概要

#### 第1 会期決定の件

本日一日と決定

#### 第2 事務報告1 令和5年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査の実施について(学校教育室)

別添事務報告により説明

新妻委員：追検査受検を認めるわけですから、これは要項にあったものに該当している方というふうに捉えてよろしいですね。

三浦義務教育課長：はい、詳細は控えますがそういうことでございます。

#### 第3 事務報告2 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について(保健体育課)

別添事務報告により説明

宇部委員：何年も前の時には、岩手は全国になかなか届かない状態にありましたが、年々色んな面で全国に追いつき、全国よりも良い結果を残してきている項目もあるので大変良いなと思っております。60プラス運動の成果というのはかなり大きいと思います。体力というのは全ての生涯学習においても基本になるものだと思いますし、幼児期の運動というのがやはりその後に影響があると感じております。幼児教育センターと一緒に進めていくということで、また成果が出てくるのではないかと期待しているところです。

小野寺委員：この結果を見ると、コロナ禍においても先生方の望ましい指導により、良い結果が出ているな、頑張ってくださいなと感じております。運動が好きな子、苦手な子の二極化という部分もあると思いますが、そういう二極化に関わること、それから地域差について分析しているものがあれば教えてほしい。また、この調査結果を踏まえて各学校に何か取組を促していこうと思っているのかどうか教えてください。

菊池保健体育課総括課長：二極化につきましては、全国的な状況も当てはまりますが、現在A～Eの5段階評価をしておりまして、A～Cの評価児童生徒が減少しD・Eの児童生徒が増えている状況にあり

ます。それぞれ地域、学校によって取組は違うところがございますが、やはり児童生徒に対して運動する機会を設定することと時間を確保すること、そして何より運動の楽しさや喜びを得られるような取組、授業を展開すること、動機づくりといったものが重要であると考えております。取組についてですけれども、岩手県ではできる限り授業中において運動する時間の確保ということに取り組んでおります。例えば授業時間45分であればその半分の22分30秒については体を動かす時間を確保する、道具の準備、片づけ、説明の時間といったものを極力コンパクトにして運動時間を確保していくといった取組みを長い間継続しております。そういった部分も結果に結びついていると思います。今後も引き続きこれまで培ってきたものについては生かしながら、新しい課題に対しては向き合いながら授業改善に向けて取り組んでいきたいと思っております。

新妻委員：数字的に見れば肥満傾向はある程度進んでいるとしても、運動能力全般については向上しているということで、肥満だから運動能力が下がっているという懸念は一応払拭はされたんだと感じております。小学校と中学校を比べてみますと、小学校はマイナスではないが向上率という意味では、中学校よりも落ちている。その辺りはどのような要因があると考えられるのか。また、今後の課題として、現在の小学生が中学生になったらどうなっているのか、現在の中学生で伸びを示している2年生は小学校の時どうだったのか、どうしてこのような伸びが示されるようになったのか、その背景にはどのような要因があると考えられるのかといったところも可能であれば分析の対象にさせていただければと思います。

菊池保健体育課総括課長：小学校の結果につきましては、全国的にみるともちろん高いんですけども、中学校と比較すると若干劣るという状況です。やはり生活習慣といったものが大きく影響していると考えております。肥満であったり朝食欠食、睡眠不足、スクリーンタイムの増加といった影響が挙げられると思います。あわせて、小学5年生は、現在60プラスプロジェクトに取り組んでおりますが、運動・食・生活習慣といった部分の日常生活がまだ確立されてないところもあるのかなと認識しております。資料の1のところですが、令和元年度の小学5年生が令和4年度の中学2年生となります。単純に数字的な比較はできませんが、男女とも確実に向上しているという状況でございます。また、小学校と中学校の連携、地域での一貫した取組といったことが中学校さらには高校、さらに進むと生涯にわたる健康づくりに繋がっていくものと考えております。

新妻委員：小学5年生が何年後かの中学2年生の調査に該当した時にどのようになっているのか見ていく必要があるのかなと思います。毎年のことですので、変容変化の背景についても目に留めていただければと思います。

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。